

6. そのほか注意しておきたい水辺の危険な動植物

【哺乳類】

クマ(ツキノワグマ, ヒグマ)

主に夜間活動する。地元の人から事前に情報を得ておくようにする。クマ除けの鈴やラジオを鳴らして人間の存在を知らせていけば、向こうから近づいてくることはめったにない。もし出会っても走って逃げないこと。



【魚類】

ギギ

淡水性。夜や雨の後の水が濁っている暗に活動する。背びれと胸びれに毒刺(とげ)がある。



【爬虫類・両生類】

=ボンマムシ

北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 奄岐, 対馬, 伊豆大島, 八丈島, 大隅諸島などに分布。全長 45 ~ 77cm。平地にも山地にもいて, 夜行性だが曇りの日は昼間も活動する。おとなしい蛇で毒の量は少ないが, 毒性が強く, 年に数人が亡くなっている。大水の後などに下流域に流されてくることもある。



ヤマカガシ

本州, 四国九州のほか, 隠岐, 奄岐, 屋久島などの島しょ部にも分布。全長 70 ~ 158cm。水田や川など, カエルのいる水辺にいる。毒は強いが性格はおとなしい。1984年に愛知県で中学生が噛まれて死亡するまで, 毒があることはあまり知られていなかった。頬の耳下腺(デュベルノワ腺)から分泌される毒は血液と血管に作用して出血を起こさせる。



アズマヒキガエル

北海道南部, 本州東北部(近畿及び山陰まで), 佐渡, 伊豆大島などの海岸付近から 2500m の高山に及ぶさまざまな環境に棲息する。体長は 12cm 程度。後頭部にある耳腺や皮膚腺から毒が分泌される。毒液が粘膜に付くと炎症を起こす。



アカハライモリ

本州, 四国, 九州, 佐渡, 隠岐, 奄岐, 大隅諸島などに分布。体長は 80 ~ 130mm。日本固有の種で Cynopus 属の中では最も北に分布している。湿地によくみられるが陸に上がって活動することが多い。皮膚腺からフグと同じテトロドトキシンを分泌する。



【昆虫類・その他】

オオスズメバチ

スズメバチの中の最大種で成体は 27 ~ 45mm。ネズミや蛙などの古い巣を利用して, 地中に巣を作る。毎年, 数人がハチに刺されて死ぬが, その多くがスズメバチによるもの。攻撃的で毒も強い。ハチの毒針は産卵管が変化したもので, 刺されると皮膚が赤く腫れ上がり, 中心にぼつんと出血する。



コアシナガバチ

成体は 10 ~ 16mm。腹部に黄色い横帯や紋がある。それほど攻撃的ではないが, 低木の横や岩陰, 人家の軒下に巣を作るのでやや危険。巣の近くを刺激すると攻撃される。



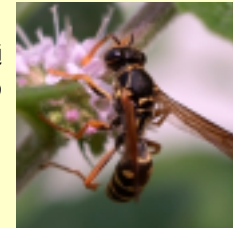
キアシナガバチ

成体は 15 ~ 25mm。セグロアシナガバチに似ているが, 胸部の後部の背面に黄色い紋がある。セグロアシナガバチより山地を好む。攻撃的で毒も強く危険。



フタモンアシナガバチ

成体は 10 ~ 13mm。日本で最も普通のアシナガバチ。腹部の前部に三つの紋がある。それほど攻撃的ではないが, 人家にも巣を作るのでやや危険。



ミツバチ

木の洞などに蜂で巣を作る。花にやってきたものは, 刺激しなければ攻撃しない。



シロフアブ

日本全国の牧場に多い。二酸化炭素に反応して人や動物に集まる。刺された時の痛みはそれほどではないが, その後 2 ~ 3 週間しつこいかゆみが続く。幼虫は水田にいて, これに刺されても猛烈に痛い。



アカズムカデ

頭部が赤い大ムカデ。北海道以外の全国に分布。最も毒性が強く噛まれると激痛と患部の腫れ, リンパ炎, 発熱などを引き起こす。



アシマダラブユ

北海道, 本州, 九州, 奄美大島, 沖縄諸島に分布。体長 8 mm 前後で, 黒と淡い黄色のまだら模様の特徴。吸血するのは雌の成虫のみ。きれいな水のある所で, 特に朝や晩に刺されやすい。刺されると痛みを伴い驚くほど出血する。刺された約 1 週間は, 痛みと痒みが続く。この他日本にいるのはオオブユ, ウマブユ。



ヌカカ

北海道, 本州の山林や葦原, 河原付近に棲息し, 曇りの日や夕暮れ時に活動する。追い払っても襟元や袖口から衣服の中に入り吸血する。数分は痛みを感じ, その後激しいかゆみとなる。



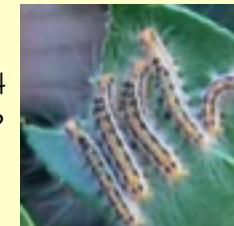
チスイヒル

ヒルド科。古代ヨーロッパでは, 生きているヒルを患者の皮膚に吸い付けさせ, 血液を吸収させる血療法が用いられた。噛み付く時に「モルヒネ」のような物質を出すので痛みはなく, 意外に気付かない。また, 同時に「ヒルジン」という血液の凝固を抑制する物質を出すので, 血が止まらなくなるのが特徴。噛まれた後は 2 ~ 3 日かゆみが続く。



チャドクガ

茶, サカキ, サザンカなどツバキ科の葉を食べる幼虫。夜間灯火に集まる成虫も毒針毛を持つ。



イラガ

刺されると最も痛いケムシで, カキ, クリなどの果樹の葉を食べる。太くて短いカラダに剛毛を持つ。



アカツツガムシ

秋田県の雄物川, 山形県の最上川, 新潟県の信濃川, 阿賀野川の川岸のアシの中に棲息。体長 0, 2mm。幼虫期のツツガムシは一時期だけ標的動物に吸着し組織液を吸収するが, この時ツツガムシ体内のリケッチアが動物に注入されツツガムシ病に感染する。ツツガムシ病の発生には地域性のほか季節性があり, 東北・北陸では春と晩秋, 関東以西では晩秋に多発する。一時ツツガムシ病の発生は減少していたが, 1970 ~ 80 年にかけて再び増加し, 発生地域も拡大している。現在では北海道と沖縄を除く各地で, 春から初夏及び晩秋から冬にかけて年間数百人の患者が発生しており, 死亡者も年によって数人報告されている。



【植物】

ヤマハゼ

山に生える櫛はぜ)ということからその名前が付いた落葉小高木。自生するヤマハゼからも蠟が取れ, 姿もハゼノキとよく似ているが葉や若芽に毛があるのがヤマハゼ。雌雄異株。東海以西の本州, 四国, 九州で見られる。樹液に触れるとかぶれる。



ヤマウルシ

日本各地の低地や山の湿った場所に生育する落葉灌木。漆器に用いるウルシの木ほどではないが, 樹液に触れるとかぶれる。雌雄異株。春先に出る新芽は, 山菜のタラノメと芽出しがよく似ているので間違えやすい。



ヌルデ

日本全国及び中国, インドなどの温帯, 暖帯に広く分布。生薬の五倍子(ごばいし)は秋に葉でできた虫こぶを採集し湯通しして乾燥させたものだが, 葉の中のタンニンが草食動物の採食から防御する役割を果たす。ウルシの仲間なので触るとかぶれることがある。



オニグルミ

山野に生える。葉の両面や中軸に腺毛が密集する。果皮や葉にアレルギー物質を含んでいる。



キョウチクトウ

インド原産。生木のまま燃やすと毒が出て, 煙を吸い込むと嘔吐, めまいなどを起こし, 心臓麻痺に至ることもある。毒の成分は, オレアドリル, ギトキシゲン, アディネリン, ジギトキシシン。どこにでも生えているので, 箸の代わりにしたり触った手でものを食べたりしないようにする。

